

丸善株式會社處務規則

大正九年一月改正
二月一日實施

目次

第一章 總則

第二章 社員

第三章 職員

第四章 取締役會

第五章 服務

第六章 執務時間及休暇

第七章 俸給及其ノ他規則

第八章 旅費

第九章 賞與及懲戒

第一章 總則

第一條 本則ハ法律及定款ノ規定ニ依リ會社ノ業務ヲ處理スルニ適用スルモノトス

第二條 本則ニ於テ取締役會ノ決議ヲ要セサル事項ハ社長專務取締役又ハ支配人ノ意見ニ依リ之ヲ處理スルモノトス
但別ニ規定アルモノハ其ノ規定ニ依ルモノトス

第二章 社員

第三條 會社ニ左ノ役員ヲ置ク

一、取締役三名乃至七名

一、内、社長一名 專務取締役一名ヲ任命ス

但社長ハ之ヲ任命セザルコトアルベシ

一、監査役二名乃至三名

第四條 會社ニ左ノ職員ヲ置ク

一、支配人一名乃至三名

一、副支配人若干名

一、手代若干名

第五條 職員ノ外雇員及見習員ヲ置ク

第六條 社員ノ外業務ノ必要ニ依リ顧問員及囑託員ヲ置ク

第三章 職責

第七條 社長ハ法律定款及び本則ノ規定ニ依リ會社ノ業務ヲ統轄シ且會社ヲ代表ス

第八條 專務取締役ハ社長ヲ補佐シ會社ノ業務ヲ執行ス

但社長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ社長ヲ任命セザルト

キハ之ヲ兼任ス

第九條 取締役ハ取締役會ニ出席シテ意見ヲ陳述シ專務取締役事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

第十條 監査役ハ法律及定款ノ規定ニ依リ業務ノ執行ヲ監督ス

第十一條 支配人ハ社長又ハ專務取締役ノ命ヲ承ケテ諸般ノ事務

ヲ掌理シ職員以下ヲ監督ス

第十二條 副支配人ハ支配人ヲ補佐ス

第十三條 手代ハ所屬上役ノ指揮ヲ承ケテ各自擔當ノ事務ヲ處理

ス

第十四條 雇員及見習員ハ所屬上役ノ命ヲ承ケテ諸般ノ事務ヲ補

助ス

第十五條 顧問員ハ專務取締役又ハ支配人ノ諮問ニ依リ意見ヲ陳

述シ囑託員ハ支配人ノ囑託スル事務ニ従事ス

第四章 取締役會

第十六條 取締役會ハ社長又ハ專務取締役之ヲ招集シ取締役半數

以上ノ會合ニ依リ成立ス

第十七條 取締役會ニ於テ決議スル事項ハ左ノ如シ

一、諸規則ノ制定及其ノ改廢

一、株主總會ニ提出スル諸般ノ報告及議案

一、營業費及運用資金ノ豫算及其ノ變更

一、土地及ビ建物ノ賣買

一、建物ノ改築又ハ大修繕

一、棚卸商品及ビ土地建物等ノ價格ノ査定

一、職員顧問員及ビ囑託員ノ任免并ニ増俸及ビ減俸

一、臨時手當金及ビ慰勞金ノ給與

一、賞與金及ビ其ノ他ノ賞與

一、懲戒ノ處分

一、外國へ出張員ノ派遣及ビ其ノ旅費

一、其ノ他ノ重要ナル事項

第十八條 取締役會ハ毎月三回定時開會シ必要アルトキハ臨時會

又ハ回議案ヲ以テ決議ス

第十九條 取締役會ハ支配人其ノ他議事ニ關係アル者ヲ列席セシ

メ意見ヲ陳述セシムルコトアルベシ

但決議ノ數ニ加ヘズ

第二十條 取締役會ニ於テ決議シタル事項ノ要領ハ議事錄ニ記載

シ各自之ニ捺印スルモノトス

第五章 服務

第二十一條 職員以下社員ハ定款社則其ノ他上役ノ命令訓誨ヲ恪

守シ誠實勤勉各職務ニ従事スルモノトス

第二十二條 職員以下社員ハ入社ノ際誓約書及ビ確實ナル保證人

二名以上ノ連署シタル身元保證書ヲ差入レ職員ニアリテハ此他

別ニ定ムル處ノ規定ニ依リ保證金ヲ差入ル、モノトス

但社員ヲ以テ保證人ト爲スコトヲ得ズ

第二十三條 職員以下社員ハ會社業務ノ外自己又ハ他人ノ事業ニ從事シ又ハ命令以外ノ事件ヲ處理スルコトヲ得ズ

第二十四條 職員以下社員ハ會社業務ノ機密ニ屬スル事件ヲ他人ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十五條 職員以下社員ハ專務取締役又ハ支配人ノ許可ヲ得ルニアラザレバ其ノ職務ニ關シ慰勞謝儀其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルモ直接間接トヲ問ハズ他ヨリ贈遺獎勵ヲ受クルコトヲ得ス

第二十六條 職員以下社員ハ擔當ノ事務ニ付意見ヲ開陳セントスルトキハ所屬上役又ハ專務取締役ニ稟告スルコトヲ得

第二十七條 職員以下社員ハ出勤ノ時勤怠簿ニ捺印スルモノトス

第二十八條 職員以下社員ハ病氣其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ缺勤遅刻又ハ早引セントスルトキハ其ノ旨支配人ニ届出ツルモノトス

但缺勤七日以上ニ及フトキハ醫師ノ診斷書又ハ事故ヲ證明スル書面ヲ差出スモノトス

第二十九條 職員以下社員ハ住所ヲ變更スルトキハ直チニ支配人ニ通知スルモノトス

第三十條 職員以下社員ハ會社又ハ會社設備ノ建物附近ニ於テ水火災其ノ他非常ノ事變アルトキハ速ニ駆け付け臨機事ニ従フモノトス

第三十一條 職員以下社員ハ部下ニ懲戒ノ處分ヲ要スト認ムルモノアルトキハ直チニ其ノ狀ヲ具シテ所屬上役ニ稟告スベシ其ノ情ヲ知リテ稟告セザルトキハ過失ノ責ヲ免レサルモノトス

第三十二條 職員以下社員ハ輪番ヲ以テ會社ニ宿直スル義務アルモノトス

但宿直規定ハ別ニ之ヲ定ム

第三十三條 職員以下社員ハ轉職スルトキ其ノ擔當事務ノ結了セサルモノヲ書面ニ認メ七日以内ニ後任者ニ引繼クモノトス

第六章 執務時間及休暇

第三十四條 會社ノ執務時間ハ午前八時三十分ヨリ午後五時マデトス

但時宜ニヨリ伸縮スルコトアルヘシ

第三十五條 會社ハ左記ノ日ニ於テ休業ス

一、一月一日、二日、三日

一、紀元節

一、春季皇靈祭

一、神武天皇祭

一、棚卸執行當日二日間

一、明治天皇祭

一、天長節

一、秋季皇靈祭

一、神嘗祭

一、天長節祝日

一、新嘗祭

但前記ノ外國祭又ハ祝祭ノ日ハ臨時休業スルコトアルヘシ

第三十六條 職員以下社員ニハ入社ノ翌月ヨリ日割ヲ定メテ左記

日數ノ休暇ヲ給ス

一、支配人

毎月四日

一、副支配人（支店支配人ヲ含ム） 毎月三日

一、手代及ビ相當月俸ノ雇員 毎月二日 日給ハ毎月一日

一、見習員及ビ相當月俸ノ雇員 毎月一日

第三十七條 職員以下社員ニハ左記ノ場合ニ於テ特ニ休暇ヲ給ス

一、父母及ビ妻子ノ死亡シタルトキ 七日

一、祖父母又ハ兄弟姉妹等ノ死亡シタルトキ 三日

一、徴兵検査又ハ簡閲點呼ニ應スルトキ 往復日數ノ外當日

第三十八條 職員以下社員ハ滿一年以上勤續スルトキハ左記日數

ノ休暇ヲ受クルコトヲ得

一、支配人

毎年十五日

一、一等手代及ヒ相當月俸ノ雇員

毎年 七日

前年 前半年期入社ノ者ニハ五日
後半年期全

一、六等手代及ヒ相當月俸ノ雇員

毎年 五日

前年 前半年期入社ノ者四日
同 後半年期同 二日

第七章 俸給及其他給與

第三十九條 役員ノ報酬ハ株主總會ノ定ムル範圍ニ於テ定額ヲ支

出ス

第四十條 支配人及ビ副支配人ノ俸給ハ三百圓以内ニ於テ定額ヲ

支給ス

第四十一條 手代ノ俸給ハ左表ニ依リ相當額ヲ支給ス

級等	壹等	貳等	參等	四等	五等	六等
一級	二〇〇圓	一四〇圓	一〇〇圓	八〇圓	六〇圓	四〇圓
二級	一八〇圓	一三〇圓	九五圓	七五圓	五五圓	三七圓
三級	一六五圓	一二〇圓	九〇圓	七〇圓	五〇圓	三三圓
四級	一五〇圓	一一〇圓	八五圓	六五圓	四五圓	三〇圓

外ニ見習員ノ俸給ハ廿七圓、廿五圓、廿三圓ノ三等トス

第四十二條 雇員ノ俸給ハ月俸百五拾圓以内日給五圓以内ニ於テ

定額ヲ支給ス

第四十三條 見習員ノ俸給ハ月俸貳拾七圓以内日給九拾錢以内ニ

於テ定額ヲ支給ス

第四十四條 顧問員及囑託員ノ俸給ハ月俸參百圓以内日給拾圓以

内ニ於テ定額ヲ支給ス

第四十五條 職員以下最高俸給ヲ受ケ多年勤續スル者ニハ其俸給ノ五割以内ニ於テ増俸スルコトアルベシ

第四十五條ノ二 職員以下三ヶ月以上勤續スル者ニハ其ノ擔當事務ノ難易成績出勤日數等ヲ參酌シテ毎期末ニ於テ手當金ヲ支給ス

第四十六條 職員以下劇務若クハ重要ナル職務ヲ擔當スル者ニハ俸給ノ外手當金ヲ支給ス

第四十七條 前條ノ外營業ノ成績ニ依リ臨時手當金ヲ支給スルコトアルベシ

第四十八條 職員以下滿壹年以上勤續スルモノ兵役ニ應シ入營又ハ從軍スルトキハ手當金トシテ月俸ノ一ヶ月分乃至六ヶ月分ヲ給與ス

第四十九條 俸給及月手當金ハ毎月二十五日之ヲ支給ス

第五十條 日給ハ出勤日數ニ應シテ之ヲ支給ス

但會社ノ休業日ハ出勤日數ニ算入ス

第五十一條 任免及ヒ増俸減俸ノ當月ニ係ル月俸及手當金ハ日割ヲ以テ支給ス

但死亡ノ場合ハ當月分ノ全額ヲ支給ス

第五十二條 退職者ニシテ事務引繼又ハ殘務處理ノ爲メ猶事ニ從フトキハ其ノ間從前ノ月俸及ヒ手當金ヲ日割ヲ以テ支給ス

第五十三條 職員以下病氣其ノ他ノ事故ニ依リ缺勤スルトキハ翌月ヨリ月俸及手當金ヲ支給セス

第五十四條 職員ニシテ滿壹年以上勤續スル者病氣ニ依リ缺勤スルモ三ヶ月間ハ月俸全額ヲ給與シ尙三ヶ月間ハ其半額ヲ給與ス

第五十五條 職員ニシテ滿三年以上勤續シタル者死亡シタルトキ又ハ懲戒ノ處分ニ依ラズ病氣其他止ムヲ得サル事故ニ依リテ退職スルトキ又ハ會社ノ都合ニ依リテ解職スルトキハ慰勞金ヲ給與ス

第五十六條 前二條ノ規定ハ雇員ニモ準用スルコトアルベシ

第五十七條 在職中ノ者ト雖モ滿十五年以上勤續スル者ニハ慰勞金ヲ給與スルコトアルベシ

第五十八條 慰勞金ハ左ノ範圍ニ於テ給與ス

一、三年以上勤續スル者 當時ノ月俸ニヶ月分以内

一、五年以上全 八ヶ月分以内

一、十年以上全 十六ヶ月分以内

一、十五年以上全 二十四ヶ月分以内

一、二十年以上全 三十二ヶ月分以内

但年數ハ入社ノ時ヨリ起算シ在職中慰勞金ヲ受ケタル者ノ年數ハ其時ヨリ起算ス

第五十九條 在職中特別ノ功勞アリタル者ニハ範圍外慰勞金ヲ給

與スルコトアルベシ

第六十條 職員以下死亡シタルトキハ俸給ニヶ月分以内三年以上勤續シタル者ニハ俸給一ケ年以内ノ範圍ニ於ケル金額ヲ吊慰料トシテ其遺族ニ給與ス

第八章 旅費

第六十一條 役員以下社用ヲ帶ヒ内地ヲ旅行スルトキハ左表ニ依リ相當ノ旅費ヲ支給ス

等級	汽車賃	宿泊料	日當
一級	取締役 監査役 支配人	一等定額	七圓五拾錢 參圓五拾錢
二級	副支配人	二等定額	六圓五拾錢 參圓
三級	手代自一等 至四等	二等定額	五圓五拾錢 貳圓五拾錢
四級	全五等以下	三等定額	四圓五拾錢 貳圓

第六十一條ノ二 一週間已上全地ニ滞在スルハ宿泊料ヲ遞減ス

但車馬賃ハ實費ヲ以テ支給ス

第六十二條 旅行ノ性質又ハ地方ノ情況ニ依リ定額ヲ以テ支辨シ

難キ場合ハ實費ヲ以テ支給ス

第六十三條 旅行中臨時必要ト認ムル費用ハ其實費ヲ支給ス

第六十四條 旅行中疾病又ハ不慮ノ災厄ニ依リ止ムヲ得ズ滞在スルトキハ其證明アルモノニ限り宿泊料ヲ支給スルコトアルベシ

第六十五條 顧問員及ビ囑託員ノ旅費ハ前表中一級ヨリ三級ニ至ル範圍内ニ於テ定額ヲ支給ス

第六十六條 雇員ノ旅費ハ前表中三級若クハ四級ノ定額ヲ支給ス

第六十七條 見習員ノ旅費ハ前表中四級ノ範圍内ニ於テ實費ヲ支給ス

第六十八條 支店ニ出張シ同所ニ宿泊又ハ滞在セシムルトキハ手當金ヲ支給シ日當及ヒ宿泊料ヲ支給セズ

第六十九條 赴任ノ旅費ハ宿泊料及日當ノ二倍ヲ支給ス此場合ニ於テ家族ヲ携帶スルトキハ別ニ手當金ヲ支給ス

但見習員ニハ定額ノ二倍以内ニ於テ實費ヲ支給ス

第七十條 退職ノ者事務引繼若クハ殘務取纏ノ爲メ旅行スルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給ス

第七十一條 赴任ノ旅費ハ出發ノトキ支給シ出張ノ旅費ハ歸着ノトキ旅費計算書ニ依リ支給ス

但出張ノ旅費モ出發ノ際豫算ニ依リ假渡スルコトアルベシ

第七十二條 旅費計算書ニハ旅行日誌ヲ添付スルモノトス

第九章 賞與及懲戒

第七十三條 毎決算期ニ於ケル職員以下ノ賞與金ハ其擔當事務ノ

難易出勤日數等ヲ參酌シテ給與額ヲ定ム

第七十四條 職員以下會社ノ業務ニ付顯著ナル功績ヲ擧ケタル者

ニハ臨時特別賞與金ヲ給與ス

第七十五條 多年勤續スル者ニシテ屢著大ナル功績ヲ擧げ會社ノ名譽又ハ信用ヲ高メタル者ニハ特ニ感謝狀及紀念品ヲ授與ス

第七十六條 職員以下社則ニ違背シ會社ノ名譽又ハ信用ヲ傷ケ若シクハ不正ノ行爲^{マフ}シ故爲又ハ怠慢ニ因リ會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ左ノ三項ニ依リ懲戒ス

一 譴責

一 謹慎

一 解職

但會社ニ損害ヲ生セシメタルトキハ之ヲ賠償セシム

〔注〕 丸善株式會社處務規則 大正九年一月改正 二月一日実施 半紙判 本文十八丁

明治・大正期の処務規則に関する資料は極めて乏しく、明治二十九年服務規律が定められ、明治三十五年十二月に処務規則草案を作成協議したことが「中村重久日記」に記されているが、内容は記されていない。現在この大正九年のものが当社に残っている最も古い処務規則である。

身元保證金規定

大正十二年二月一日施行

第一條 支配人及手代ハ左ノ標準ニ依リ身許保證金ヲ會社ニ差入ルルモノトス

正副支配人

金參千圓

一等

金貳千五百圓

二等

金貳千圓

三等

金壹千五百圓

四等

金壹千圓

五等

金七百五十圓

六等

金五百圓

第二條 一時ニ身許保證金ノ全額ヲ差入ル、コト能ハザルモノハ其金額ニ達スルマデ毎月俸給ノ一割宛ヲ差入ル、モノトス但一ケ年分又ハ半ケ年分ヲ一回若クハ二回ニ納入スルコトヲ得

第三條 身元保證金ニハ差入ノ翌月ヨリ年一割ノ割合ヲ以テ利子ヲ付スベシ

但金融ノ繁閑ニ依リ變更スルコトアルベシ

第四條 利子ハ毎年六月十二月ノ兩度ニ支拂ヲ爲スベシ

第五條 會社ノ確實ト認ムル有價證券ハ身許保證金ニ代用スルコトヲ得

第六條 身許保證金ハ退社後三ヶ月ヲ經過スルニアラザレバ拂戻ヲ爲サズ

第七條 前條ノ場合ト雖モ會社ニ損害ヲ生セシメ又ハ會社ニ債務アルトキハ其債務ヲ辨濟シ又ハ損害ヲ賠償シタル後ニアラザレバ拂戻ヲ爲サズ

第八條 本規定ハ大正十二年二月一日ヨリ施行ス

〔注〕 身元保證金規定

大正九年改正の処務規則は、同年四月（事務ノ分掌追加）、大正十一年一月十九日に各々改正補筆したが、新たに「身元保證金規定」を制定、大正十二年二月一日より施行した。

寄宿舎取締假規定

大正十三年六月

(1) 舍監補助係ノ職務

一、舍監補助係ハ舍監ノ指圖ニ從ヒ其職務ノ補助ニ任スルモノトス

二、毎朝出社ノ爲整列スルトキハ各班ヲ整頓セシメ舍監ニ對シ朝禮ヲ行ハシムルモノトス

三、不時ノ事變アルトキハ直ニ事務室ニ集マルヘシ

(2) 班長及副長ノ職務

一、若干室ヲ合シテ班ヲ編成シ之ニ班長（新入舍生ノ班ニハ更ニ副長）一名ヲ置ク

副長ハ班長ヲ補佐シ其不在若クハ事故アルトキハ之ガ代理ヲナスモノトス

二、各班長ハ其班内ノ直接取締ヲナスモノトス 不時ノ事變ニ際シテ事急ナラサルトキハ其班ノ舍生ヲシテ室内（夜學中ハ其教室）ニ靜肅ニ位置セシムルコトニ努メ命ヲ待ツヘシ

三、班長ハ本社及舍監ノ命令等アルトキハ速ニ之ヲ傳達シ其實行ヲ期スヘシ

四、班長ハ寄宿舎内若クハ寄宿舎員ニ事故アルヲ認メタルトキハ

速ニ舍監ニ報告スヘシ

五、出社ノ爲毎朝第一振鈴ニテ起床シ室内ノ拭掃除ヲナサシメ病氣、休暇等ニテ整列シ能ハサルモノハ其氏名ト事故トヲ詳細ニ

「ピラ」紙ニ記シテ第二振鈴前ニ舍監ニ出スヘシ

第二振鈴ニテ其班ヲ指定ノ場所ニ整列セシメ其人員ヲ點檢シ異狀アルトキハ舍監ニ報告シ其命ヲ待ツヘシ

舍監ヨリ出發ヲ命セラレタルトキハ其引率ノ下ニ指定ノ班順ニ指定ノ通路ヲ經テ本社ノ指定ノ場所ニ至リ人員ヲ點檢シテ解散セシメ異狀アレハ其旨ヲ舍監ニ報告スヘシ

六、歸舍ノ爲毎夕午後六時ニ指定ノ場所ニ指定ノ班順ニ整列セシメ其人員ヲ點檢シ事故アルトキハ之ヲ舍監ニ報告ス次ニ出發ノ合圖ニテ班順ニ午前ト同様ニ歸舍シ通用口ノ前ニ其班ヲ停メ人員ヲ點檢シテ舍内ニ入ラシメ寄宿舍ノ點檢ヲ行ハシム

此點檢ニハ其班ヲ一列側面縱隊トナシ班長ハ之ニ立合フモノトス

七、凡テ往復途上ハ二列側面縱隊トシ前方ニ在ル班ヨリ若干ノ距離ヲ取り一般ノ交通ヲ妨害セサルコトニ注意スヘシ之カ爲成ルヘク左側通行ヲ勵行シ班長ト雖モ列中ニ位置スヘキモノトス但シ其班ノ狀況ヲ視ル爲等一時列外ニ出ツルハ可ナルモ速ニ其位置ニ復スヘシ

八、舍内ニ在リテハ靜肅ヲ保持セシメ殊ニ就寢ノ振鈴アルトキハ他人ノ安眠ヲ妨ケサル様、直ニ就床セシムヘシ

(3) 寄宿員ノ心得

一、火ノ用心ハ最モ肝要ナリ深く注意スヘシ

不時ノ事變アルトキハ現在ノ室(夜學中ハ教室)ニ在リテ靜肅ヲ守リ命令ヲ待ツヘシ

二、日課時限(振鈴ニテ報ス)ハ必ス嚴守スヘシ

三、舍内ニ在リテハ靜肅ヲ旨トシ吟歌、高聲、其他粗野、喧騒ニ涉ル如キ行爲ヲ慎ミ殊ニ就床後ハ他人ノ安眠ヲ妨グル如キ所爲ハ嚴禁トス

四、各室ハ現在員協力シテ毎朝起床後直ニ其室及指示セラレタル場所ノ拭掃除ヲ勵行シ其清潔ヲ保持スヘシ

五、事故アル外入浴日ニハ必ス入浴ヲナシ身體ヲ清潔ナラシムヘシ

六、紙屑等ハ指定ノ屑籠ニ棄テ、痰・唾ハ其容器ニ吐キ舍内ハ勿論、舍外ト雖モ決シテ不潔ナラシムヘカラス

七、外人ヲ濫ニ舍内ニ入ルヲ禁ス

但シ面會人ハ舍監ノ許可ヲ得タル後、應接室ニ於テ面會スルコトヲ得

八、舍内ノ建具及備品ハ丁寧ニ取扱フヘシ若シ過ツテ器具戸障子

等ヲ破損セシトキハ直ニ其由ヲ舍監ニ申出ツベシ

九、衣服其他自己ノ所持品ニハ成ルヘク氏名ヲ記入シ所定ノ場所ニ整頓シ置キ他人ノ物品ト混淆セサル様注意スヘシ

十、金錢ハ常ニ所持スヘカラス

十一、病氣ニテ出勤シ能ハサルトキハ其旨ヲ班長ニ申出ツヘシ

但シ本社ニ出勤時間中病氣等ノ爲早引ヲナサントスルトキハ「寄宿生早引證明書」ニ所要ノ記入ヲナシ之ニ其課長ノ認印ヲ受

ケ次ニ在社ノ舍監ノ一覽ヲ經テ之ヲ庶務課ニ出スヘシ、此際舍監

ヨリ「寄宿生早引證明書」ヲ受領シ之ヲ在舍ノ舍監ニ差出スヘシ
診療ヲ受クル者ハ在社ノ舍監ニ其旨ヲ申出ツヘシ

十二、止ムヲ得サル私用アリテ本社ヨリノ歸途外出セントスルト

キハ舍監ノ許可ヲ得テ「外出證明書」ヲ受領シ行先ニテ之ニ所要ノ記入ヲ受ケテ持歸ルヘシ

病氣、私用歸郷者心得

一、夜學教科書・「マーク」・其他會社ヨリ借用ノ物品ヲ舍監ニ預ケ置クヘシ

二、未ダ受取ラザル洗濯物・修理物ナダルトキハ之ヲ「ビラ」

紙ニ記シ舍監ニ届出ツベシ

三、日常必要ノ物品ハ持歸リ其他ハ成ルヘク箇數ヲ少クシテ丈夫

ニ梱包（成ルヘク綱ヲカケルコト）ヲナシ必ス一箇毎ニ少ナクモ一箇ノ名札（洗濯用洋傘用札ナドヲ利用スルコト）ヲ附ケ誰ニモ判明スル様ニシ其品種・箇數ヲ「ビラ」紙ニ記シ舍監ニ届出デ處置ヲ請フヘシ

四、洋傘及「マント」「マント」ハ不用ナレハ梱包ノ中ニ入ル、コト）ハ成ルヘク持歸ルコト若シ持歸ラサルトキハ名札ヲ附シテ預ケ置クヘシ

五、寄宿舍ヲ出ルトキ即チ出掛^{デガケ}ニハ必ス挨拶ヲナスヘシ

六、歸郷後ハ直ニ關係ノ上長ニ書面（「ハガキ」ニテ可）ヲ以テ其趣ヲ報知スヘキモノトス

七、歸郷ガ長キニ涉ルトキハ時々自分ノ様子ヲ關係ノ上長ニ報知スヘキモノトス

八、寄宿舍ニ歸リタルトキハ直ニ舍監（不在ノトキハ舍番）ニ届出ツヘシ無斷ニテ室内ニ入ルガ如キハ嚴禁トス

歸郷中最早歸舍セントシテ若干日餘裕アルトキハ成ルヘク前以テ歸舍豫定日ヲ通知スヘキモノトス

舍監ノ職務

兩舍監ハ毎日正午本社ニ於テ交代ス

（備考）以下交代ヲ終リテ在社シ舍生ト共ニ歸舍シ翌日朝舍生ト

共ニ出發シテ本社ニ至リ正午交代迄服務スル舍監ヲ「甲」舍監ト稱シ正午交代シテ寄宿舍ニ歸リ翌日正午本社ニ於テ交代スル舍監ヲ「乙」舍監ト稱シ左ニ其職務ヲ述ブ但シ兩舍監混淆ノモノアリ

「甲」舍監

一、本社ニ出勤中ハ舍生ノ行儀監督ノ爲、少クモ一回（其日ノ午後一回、其翌日ノ朝一回）店頭ヲ巡視ス

二、諸種ノ請求品（例ヘハ帽子等）ハ現品ノ検査ヲナシ得ルモノハ之ヲ検査シテ其保存ト廢棄等ヲ決定シ請求ノ理由アルモノハ請求傳票ニ捺印シ庶務課ニ出サシム

三、早引者アルトキハ其理由ヲ糾シ正當ナルトキハ届出ノ用紙ニ捺印シ之ヲ庶務課ニ出サシメ尙寄宿員早引用紙ニ所要ノ事項ヲ記入之ヲ在舍ノ舍監ニ出サシム

早引、病氣ナルトキ其容態電車ニテ歸舍シ得ルトキハ受療券ヲ與ヘテ九段下、權田醫院ノ診療ヲ受ケシム

其他ニ在リテハ庶務課ト協議シテ處置ス

四、舍監ハ歸舍ノ爲、午後六時所定ノ場所ニ舍生ヲ整列セシメ之ヲ點檢シ共ニ寄宿舍ニ歸ル

五、夜學（之レアルトキ）ヲ監督ス

六、舍生就床後又ハ必要ノトキハ舍内ヲ巡視ス

七、毎朝出社ノ際ハ舍内所定ノ場所ニ舍生ヲ整列セシメ朝禮ヲ行

ヒ注意（之レアルトキ）ヲ與ヘ指定ノ班（毎週月曜日ニ先頭タリシ班ヲ後尾ニ移ス）ヨリ班順ニ逐次ニ出社セシム但シ時間アルトキハ整列場ニ於テ深呼吸運動ヲ行ハシム

八、出發前舍内ヲ巡視シ殊ニ當日ノ病人、諸休、及事故者等ヲ取調べ出社ノ上庶務課ニ日報ヲ出シ尙庶務課名義ヲ以テ舍生ノ病氣又ハ事故ノ爲缺勤ノ旨ヲ其關係課長ニ通知ス

「乙」舍監

一、在舍スル舍監ハ舍生出發後舍内ヲ巡視シ事故者ヲ取調べ之ガ處置ヲナス

二、正午交代シテ歸舍スル舍監ハ歸舍後舍内ヲ巡視ス

三、寄宿舍ノ傭員ヲ監督シ寄宿舍ノ衛生及整頓ニ注意ス

四、舍監補助係、圖書係、理髮器具係、天氣豫報係（此係ハ毎朝起床後新聞紙ノ天氣豫報ニヨリ必要ノ揭示ヲナス）洗濯物係（洗濯屋ヨリ出來シテ持チ來リタルモノヲ其帳面ニ引合セ本人ノ受領捺印ノ上之ヲ渡ス）ヲ置キ其分業ヲ受持タシム

此係ハ概ネ三個月毎ニ交代セシム

五、早引者アルトキハ早引證明書ヲ受領シ適當ノ處置ヲナス

（備考）病氣ニテ未タ受療セサルモノハ權田醫院ノ診療ヲ受ケシメ食事數ト其種類トヲ安部に通知ス

六、舍生宛ノ書翰ハ一應之ヲ検査シ書翰置机ノ上ニ併ベ置キ各人

ニ渡ス

七、舍生宛ノ小包又ハ書留ハ舍監監視ノ下ニ開カシメ故障ナケレハ受領帳ニ捺印セシメ本人ニ渡ス

八、病人食需調査票、下駄齒入傳票、洋傘修理傳票及雜費ヲ計算シテ毎月、本社仕拂日ノ前日迄ニ庶務課ニ出ス（此項ハ廣瀬舍監專任）

丸善夜學會、採點及成績發表ニ關スル規定

一、採點ノ評語ニ關スル件

一、評語ハ成績ヲ發表スル場合ニ用フ、之ヲ甲乙丙丁ノ四種トス、其點數ノ標準左ノ如シ

甲上 九十點以上（操行ニノミ用フ）

甲 八十點乃至百點

乙 六十點乃至七十九點

丙 五十點乃至五十九點

丁 四十九點以下

二、及落決定ニ關スル件

一、各科目六十點以上ヲ及第トシ、此標準ニ達セサル者ヲ落第トス但シ一科目ノミ六十點ニ滿タサルモ五十點以上ニシテ其平均點六十點以上ナル者ハ及第セシム

二、第二、第一學年ニ在リテハ平均六十點ニ達スルモ英語ノ一科目六十點以下ナル者ハ落第トス

〔備考〕算術又ハ國語（或ハ此二科共）ノ得點カ五十點以下ナルモ其標準點（五十點）ニ近似（例ヘハ四十九點四十八點ノ如キ）シ英語ノ得點優等ニシテ其平均六十點以上ヲ得タル者ノ及落決定ハ特別ノ詮議ニ依ル

三、成績ハ評語ヲ以テ發表ス此場合ニ於テハ只及第者ノミヲ發表シ落第者ハ省キ置クモノトス

三、優等ニ關スル件

一、平均九十點以上ヲ優等トス

二、學年末ノ成績優等ナル者ニハ賞狀及賞品ヲ授與ス、其賞品等級ヲ左ノ如ク定ム

一等賞 九十五點以上

二等賞 九十四點乃至九十點

賞牌 最優等者（次ニ示ス）

四、特待生ニ關スル件

一、第三學年生ニシテ全學年ノ平均成績、一等賞ヲ得テ本夜學會ヲ卒業シタル者ノ内、首位ヨリ第三位迄ヲ最優等者トシ之ヲ特待生ト稱ス

二、特待生ハ會社ノ認可シタル市内ノ英語夜學校ニ通學ヲ認可ス、

此場合ニ於テハ一箇年間、學費（月謝、校費及教科書等）ヲ給ス
但シ通學中ト雖モ成績不良ナル者又ハ素行疑ハシキ者ハ前掲期
間内ト雖モ此給與ヲ停止ス

附錄

皆出席賞ニ關スル件

- 一、一學年間病氣又ハ私用ニテ缺席セザル者ヲ其學年間皆出席者
トシ二等賞ヲ與フ
- 二、三學年間皆出席者ニハ一等賞ヲ與フ

〔注〕 寄宿舎取締假規定 大正十三年六月（享）

大正九年十月、東京市麴町區飯田町二丁目四十七番地九段中坂
に寄宿舎を設け、舎監を置き寄宿生の監督に當らせた。
尚、この規定の末尾に丸善夜學會の採点及成績発表規定を併載。

丸善共濟會々則

第一章 總則

第一條 本會ハ丸善共濟會ト稱ス。

第二條 本會ハ丸善株式會社（以下單ニ會社ト稱ス）ニ勤務スル
職員、雇員、見習員、女店員及傭員ヲ以テ組織ス。

第三條 本會ハ會員相互ノ親睦ヲ計リ慶弔禍福ニ同慶同憂ノ厚誼
ヲ盡シ購買其他有益ナル各種ノ施設會合ヲ企テ共存共榮ノ實ヲ
舉グルヲ以テ目的トス。

第四條 本會ノ目的タル施設會合ハ左ノ如シ。

一、共濟施設

二、購買施設

三、文藝、體育、旅行、娛樂、其他主トシテ同好趣味者ノ小會

合

四、會誌「丸善」ノ發行

第五條 本會本部ノ事務室ハ會社本店內ニ置く。

第六條 本會ノ本部ハ本店及東京市內所在ノ出張所內ノ會員ヲ直
接管理ス。

第七條 本會ハ神田、大阪、京都、名古屋、福岡、横濱、仙臺、

札幌ノ支店又ハ出張所内ニ支部ヲ置ク。

但シ神戸出張所ハ大阪支部ノ管轄トス。

第二章 役員

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

名譽會長 一名

會長 一名

理事 十八名(内一名會長)

監事 四名

評議員 若干名(内十八名理事、四名監事)

第九條 名譽會長ハ會社ノ指定スル會社取締役ヲ推戴スルモノトス。

第十條 會長ハ第十四條第一項中ヨリ選出セラレタル本部理事中ヨリ選出セラレタルモノニシテ會社之レヲ認可シタル者タルコトヲ要ス。

第十一條 理事及監事ハ評議員中ヨリ左ノ規定ニ從ヒ各項ヨリ夫々互選ニヨリ定ム。

一、本部ハ理事十名監事二名(第十四條第一項ヨリ理事四名、第二項ヨリ理事三名、第三項ヨリ理事三名、本部評議員中ヨリ監事二名)

二、大阪及福岡支部ハ理事各一名、監事各一名(第十四條第一

項ヨリ理事一名、支部評議員中ヨリ監事一名)

三、其他ノ支部ハ第十四條第一項ヨリ理事各一名

第十二條 會長ハ本會ヲ代表シ一切ノ會務ヲ統理シ理事ハ會長ヲ

補佐スルモノトス。

本部理事ハ本部ノミニ關スル事項ニツキテハ適宜單獨ニ之ヲ處理ス。

支部理事ハ各其支部ノミニ關スル事項ニツキテハ適宜之ヲ處理スルト同時ニ本部理事會ニ報告スルモノトス。

第十三條 監事ハ本會ノ會計ヲ監査シ會則ニ違反スル事項アリト認メタルトキハ直チニ名譽會長ニ報告シ更ニ總會ヲ開キ之ニ報告スル義務アルモノトス。

本部監事ハ神田、横濱、仙臺及札幌各支部ヲモ、大阪支部監事ハ京都及名古屋支部ヲモ監査スルモノトス。

第十四條 左ノ者ヲ以テ評議員トナス。

一、支配人、副支配人、部長、支店長、課長、出張所長ノ全員
二、俸給月額百圓以上ノ手代會員中ヨリ別ニ定ムル選舉規定ニ依リ各課毎ニ各一名ノ割合ニテ選出セラレタルモノ

三、其他ノ手代會員中ヨリ各課各出張所ヲ一選舉區トシテ二十名ニ付キ一名ノ割合ヲ以テ別ニ定ムル選舉規定ニ依リ選出セラレタルモノ

但シ課ニ區分セラレザル支店ハ各一選舉區トシ、二十名以下ノ課又ハ支店出張所ハ二十名アルモノト見做シ選舉ヲ行フモノトス

第十五條 評議員ハ會長理事又ハ監事ノ招集ニ應ジ諸般ノ協議ニ參與ス。

第十六條 會長ハ必要ニ應ジ委員ヲ一般會員中ヨリ任命スルコトヲ得。

委員ハ會長ノ指揮ノ下ニ會務ヲ分掌ス。

第十七條 本會ノ會計其他ノ事務ハ委員其任ニ當ル外會長ノ任命ニヨル會計係及書記若干名ヲ置キ之レヲ取扱ハシムルコトヲ得。

會計係及書記ハ會長ノ指揮ヲ受クベキモノトス。

第十八條 理事及監事ノ任期ハ一ケ年トシ評議員ハ二ケ年トス。但重任ヲ防グズ。

委員會計係及書記ハ隨時任命解任セラル、モノトス。

第十九條 會長、理事、監事、評議員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ第二章相當條項ニ照シ補缺選任ス、此場合補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘留期間トス。

第三章 會議

第廿條 本會ノ會議ハ左ノ二種トス。

一、總會

一、理事會

第廿一條 總會ハ會長、理事、監事、評議員ヲ以テ成立シ毎年一回二月ニ開催ス。

但シ會長、理事、監事又ハ評議員ノ三分ノ二以上ヲ以テ必要ト認メタルトキニ於テモ臨時開催ス。

支部役員ハ委任狀ヲ以テ代理出席ヲ行フコトヲ得。

第廿二條 理事會ハ會長及ビ理事ヲ以テ成立シ會長又ハ理事ガ必要ト認メタルトキニ於テ隨時開催ス。

支部理事ハ委任狀ヲ以テ代理出席ヲ行フコトヲ得。

第廿三條 會議ハ何レモ役員ノ三分ノ二以上ノ出席アルニアラザレバ開催スルコトヲ得ズ。

第廿四條 會議ニハ會長ハ議長ノ任ニ當リ書記一名ヲ任命ス。

第廿五條 會議ノ議事ハ出席員ノ三分ノ二以上ノ數ヲ以テ可否ヲ決ス。

第廿六條 總會ニ於テハ理事會又ハ監事ヨリ提出ノ諸般ノ事項ヲ決議スルモノトス。

第廿七條 理事會ニ於テ審議決定スル事項ハ左ノ如シ。

一、諸規則ノ制定及其改廢

二、總會ニ提出スル諸般ノ報告及議案

三、資金ノ運用、次年度ノ豫算及其變更

四、貸金ニ關スル事項

五、懲戒處分

六、其他重要ナル事項

第四章 會 計

第廿八條 本會ノ會計年度ハ毎年二月ヨリ翌年一月迄トス。

第廿九條 會長ハ毎年一月末日ニ於テ會ノ財算目録、貸借對照表並ニ收支計算表ヲ作成シ次年度ノ豫算表ヲ作成シ監事ノ承認ヲ求メ毎年二月開催ノ總會ニ報告スルモノトス。

第卅條 本會員ハ加入ノ月ヨリ毎月左ノ標準ニ依リ各自ノ俸給中ヨリ釀金スルモノトス。

但シ厘位ハ切捨トス。

月給ノ千分ノ五 日給ノ八分ノ一

第卅一條 病氣缺勤其他ノ理由ニ依リ俸給ヲ受ケザル月或ハ又俸給ガ俸給月額ノ二分ノ一ニ滿タザル時ハ釀金ヲ免除ス。

第卅二條 會社ノ提供スル基本金ハ會社其ノ管理權ヲ有スルモノトス。

會社ノ提供スル基本金ハ消費スベカラザルモノトス。

第卅三條 會員ノ釀金及基本金ヨリ生ズル收益金中ヨリ支出金ヲ控除シテ殘金アリタル時ハコレヲ支出豫備金トシテ積立ツ可キ

モノトス。

第卅四條 支出金が會員ノ釀金及ビ基本金並ニ支出豫備金ヨリ生ズル收益金ヲ超過シタルトキハ理事會ノ評決ニ依リ支出豫備金中ヨリ支出スルモノトス。

但シ支出豫備金皆無ノトキ支出金ガ收益金ニ超過スル場合ニハ支出ヲ中止シ、豫備金アルモ支出超過ガ連續スベキ懼レアリタル場合ニハ、總會ノ評決ニ依リ釀金ノ増加又ハ支出ノ制限或ハ支出ニ付キテノ規約ノ改正ヲ行フモノトス。

第卅五條 本會ノ基本金豫備金其他金錢ハ會社ヘ預金ヲナスベキモノトス。

基本金及積立金ヲ會社ノ預金以外ニ運用セントスル場合ニハ本會會長ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス。

但シ其運用ノ方法ハ株券其他ノ有價證券ニ投資スルコトヲ原則トス。

株券又ハ有價證券ハ會社ニ其保管ヲ委託スルモノトス。

第卅六條 本會ハ會社ノ解散ニヨリ又ハ本會會長ノ同意ヲ得テ會員五分ノ四以上ノ決議ニ依リ解散ス、此ノ場合ニ於テ本會ノ財産ハ各會員ノ入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給ノ全額ヲ基本トシテ其割合ニ應ジテ分配ヲナス。

第卅七條 會員ハ脫會ノ際規定ニヨル支給ノ外基本金又ハ支出豫

備金ノ分配ヲ要求スルコトヲ得ズ。

第五章 罰則

第卅八條 本會員中不都合ノ行爲アリタルトキハ理事會ニ於テ審議シ適當ノ處置ヲトルモノトス。

第卅九條 本會員不都合ノ行爲、重大ナル過失或ハ會社ノ營業妨害トナル可キ行爲ノ爲メ退社ヲ命ゼラレタルモノハ本會員中ヨリ除名シ本會ノ財産ニ付キテハ何等請求ノ權利ナキモノトス。
但シ情狀酌量ス可キモノアルトキハ理事會ニ於テ適宜方法ヲ講ズルコトアルベシ。

第六章 雜則

第四十條 本會々則ノ變更ヲナサントスルトキハ總會ノ決議ニヨリ名譽會長ノ同意ヲ經ルコトヲ要ス。

第四十一條 本會々則ニ疑義ヲ生ジタルトキハ理事會ニ於テ審議決定ス。

第四十二條 本會ニ新事業ヲ行ハントスルトキハ會長ハ準備委員ヲ一般會員中ヨリ任命シ之ヲ審議スルモノトス。

第四十三條 會員ニシテ退社シタルモノハ會員ノ資格ヲ失フモノトス。

第七章 附則

第四十四條 本會ニ左ノ帳簿ヲ備フ。

帳簿ハ必要ニ應ジテ増加スルモノトス。

一、會員名簿

一、會務錄

一、日記帳

一、總勘定元帳

第四十五條 會員ニ對スル通告又ハ報告ハ文書或ハ揭示ヲ以テス。

第四十六條 本會ハ會社ノ指示スル條件ヲ遵奉シ昭和四年九月二日成立セルモノトス。

第四十七條 本會創立ノ際本會ニ加入シタルモノハ加入後滿一年ヲ經タルモノト見做ス。

則尾一言

本會ハ其發達ニ從ヒ例ヘバ共濟施設其他諸會ヘノ支給ノ金額ヲ増加シ會費ヲ低減シ或ハ特約醫院ノ設定、俱樂部ノ新築、テニスコート其他運動場ノ設置、夏期合宿所、健康地ニ於ケル會員共用ノ小別莊又ハ共同宿泊所ノ建設等漸次本會ノ目的ヲ完成セントス。

共濟施設細則

第一節 共濟施設ノ内容ハ左ノ通りトス。

一、病氣扶助金ノ支給

二、分婉扶助金ノ支給

三、災害見舞金ノ支給

四、弔慰金ノ支給

五、脱會餞別金ノ支給

六、退社餞別金ノ支給

七、入營慶賀金ノ支給

八、結婚慶賀金ノ支給

九、出生慶賀金ノ支給

十、特別給與金ノ支給

十一、會員ヘノ金融

第二節 總テ給與金ハ届出ニ依テ行フモノトス。

第三節 會員ニシテ左ノ一ニ該當シタルモノハ給與金ヲ行ハズ。

一、眞實ノ届出ヲナサザリシトキ

二、會則第五章罰則ニ抵觸シ給與金ノ支給ヲ受クルヲ得ズト宣

告セラレタルトキ

三、給與ノ原因ノ生ジタルトキヨリ六ヶ月以内ニ届出ナカリシ

トキ

第四節 本會則ニ於テ給與金ノ基礎トスル月給又ハ日給ハ給與金

ヲ受クル本人が當時會社ヨリ支給セラレツ、アル月給又ハ日給

ヲ云フ。

第五節 給與金ハ十錢ヲ單位トシ端數ヲ生ジタルトキハ四捨五入

トス。

▲病氣扶助金

第六節 會員ニシテ加入後滿六ヶ月ヲ經タル者負傷又ハ病氣ノタ

メ左記ノ休養ヲ要スルトキハ病氣扶助金ヲ支給ス。

一、月給會員中手代ハ會社ヨリ受クル月給ガ半額トナリタル場

合、其他ハ無給トナリタル場合

二、日給會員ハ引續キ七日以上休養ヲ要スル場合、但シ最初ノ

缺勤ノ日ヨリ向七日間ハ扶助金ヲ支給セズ

第七節 前條ノ場合ノ給與スベキ金額ハ一日ニ付キ左ノ規定ニ依

ル。

月給ノ六十分ノ一 日給ノ二分ノ一

前項ノ給與日數ハ左ノ規定ニ依ル

一、加入後滿二ケ年未滿ノ場合ニハ一ケ年ヲ通ジテ三十日以内

二、加入後滿二ケ年以上ノ場合ニハ一ケ年ヲ通ジテ九十日以内

内

引續キ滿二ケ年以上缺勤ノ場合ニハ給與金ヲ行ハズ

▲分婉扶助金

第八節 會員ニシテ加入後滿一ケ年ヲ經タルモノ分婉ニ依ル缺勤

ノタメ會社ヨリ俸給ノ支給杜絶シタルトキハ其分婉ノ日ヲ中心

トシテ前後ヲ通ジ四十日以内ヲ限り缺勤一日ニ付キ左ノ規定ニ依リ分婉扶助金ヲ支給ス。

月給ノ六十分ノ一 日給ノ二分ノ一

▲災害見舞金

第九節 會員ニシテ加入後滿六ヶ月ヲ經タルモノ不可抗力ニ依ル非常ノ災害ニ罹リタルトキハ其被害ノ程度ニ依リ左ノ規定ノ範圍内ニ於テ理事會ノ決議ニヨリ災害見舞金ヲ支給ス。

月給ノ三十分ノ十五以内 日給ノ十五日分以内

▲弔慰金（家族ニ不幸アリタル場合）

第十節 會員ニシテ加入後滿一ケ年ヲ經タルモノ同一戸籍内ニ於ケル二等親以内ノ親族ニ死亡者アリタルトキハ左記ニ依リ弔慰金ヲ支給ス。

一、妻又ハ夫 月給ノ三十分ノ十 日給ノ十日分

二、父母及成年ノ子女 月給ノ三十分ノ八 日給ノ八日分

三、未成年ノ子女 月給ノ三十分ノ六 日給ノ六日分

四、祖父母孫及兄弟 月給ノ三十分ノ四 日給ノ四日分

▲弔慰金（本人不幸ノ場合）

第十一節 會員死亡シタルトキハ左ノ規定ニ依ル金額ニ入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ五ヲ合算シタル額ヲ弔慰トシテ遺族ニ支給ス。

一、加入後一ケ年未滿ノ場合 月給ノ三十分ノ十日給ノ十日分
二、加入後滿一ケ年以上ヲ經タル場合ニハ一年未滿ヲ増ス毎ニ月給ノ三十分ノ一又ハ日給一日分ヲ加算ス

第十二節 前條ノ弔慰金ハ左ノ順位ニ依ルモノトス。

一、妻又ハ夫

二、子

三、父母

四、孫

五、祖父母

但シ生前特ニ意志ヲ表示シタルトキハ右ノ順位ヲ變更シテ支給スルコトアルベシ

▲脱會餞別金

第十三節 會員ニシテ身分變更ニ依リ脱會シタルモノニハ左ノ規定ニ依リ脱會餞別金ヲ支給ス。

一、會員トナリタル後滿六ヶ月ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ一

二、會員トナリタル後滿二ケ年ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ二、五

三、會員トナリタル後滿三ケ年ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ三、五

四、會員トナリタル後滿四ケ年ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ四、五

五、會員トナリタル後滿五ケ年以上ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ五

第十四節 會員トシテ兵役ノ義務ニ服スルタメ脱會シタルモノニ

ハ入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ五ヲ脱會餞別金トシテ支給ス。

▲退社餞別金

第十五節 會員ニシテ會社ノ都合ニ依リ退社シタルモノニハ入會

後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ五ヲ退社餞別金トシテ支給ス。

第十六節 會員ニシテ自己ノ都合ニ依リ退社シタルモノニハ入會

後滿六ケ月以上ヲ經タルトキハ左ノ規定ニ依リ退社餞別金ヲ支給ス。

一、會員トナリタル後滿六ケ月ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ一

二、會員トナリタル後滿二ケ年ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ二、五

三、會員トナリタル後滿三ケ年ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ三、五

四、會員トナリタル後滿四ケ年ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ四、五

五、會員トナリタル後滿五ケ年以上ヲ經タル場合

入會後會社ヨリ支給セラレタル俸給全額ノ千分ノ五

▲入營慶賀金

第十七節 會員ニシテ加入後滿一ケ年ヲ經タルモノ現役トシテ軍

隊ニ入營シタルトキハ左ノ入營慶賀金ヲ支給ス。

三ケ月未滿入營 月給ノ三十分ノ五 日給ノ五日分

一ケ年未滿入營 月給ノ三十分ノ十 日給ノ十日分

二ケ年未滿入營 月給ノ三十分ノ十五 日給ノ十五日分

三ケ年未滿入營 月給ノ三十分ノ二十 日給ノ二十日分

▲結婚慶賀金

第十八節 會員ニシテ加入後滿一ケ年ヲ經タルモノ結婚シタルト

キハ初婚ノ場合ニ限り左ニ依ル結婚慶賀金ヲ支給ス。

月給ノ三十分ノ十 日給ノ十日分

▲出生慶賀金

第十九節 會員ニシテ加入後滿一ケ年ヲ經タルモノ子女ヲ出生シ

タルトキハ初生兒ニ限り左ニ依ル出生慶賀金ヲ支給ス。

月給ノ三十分ノ七 日給ノ七日分

▲特別給與金

第二十節 會員ニシテ不可抗力ノタメ交通ノ便ヲ失ヒ

止ムヲ得ズ缺勤シタルトキハ會社ノ規定ニヨリ會社ヨリノ俸給ガ杜絶シタル場合ニ限り左ノ規定ニヨリ特別給與金ヲ支給ス。

一日ニ付 日給ノ二分ノ一

但シ其支給日數ハ五日以内トス

第二十一節 會員ニシテ加入後滿一ケ年ヲ經タルモノ演習等ニテ

軍隊一時召集セラレタルトキ會社ノ規定ニ依リ會社ヨリノ俸

給ガ杜絶シタル場合ニハ缺勤一日ニツキ左ノ規定ニ依リ特別給與金ヲ支給ス。

月給ノ六十分ノ一 日給ノ二分ノ一

但シ其ノ支給日數ハ二十日間以内トス

第二十二節 本會ハ以上ニ定ムル給與金ノ外ニ支給ヲ行フコトアルベシ、此ノ細則ニ定ムル以外ノ支給ヲ行フニ依リテハ理事會

ニ於テ之ヲ處理ス。

▲金融

第二十三節 加入後滿五ケ年以上ヲ經タル會員ハ正當ナル理由ニ

依リ確實ナル擔保ヲ提供シ或ハ又二名以上ノ連帶保證ヲ以テ金

員ノ貸與ヲ申込ムコトヲ得。

第二十四節 加入後滿五ケ年ニ滿タザル會員ニ對シテモ身許保證金又ハ社員積立金ヲ擔保トスル場合ハ其金額ノ範圍内ニ於テ第

二十七節ニ定ムル限度ノ貸金ヲナスコトアルベシ。

第二十五節 理事會ハ會員ノ貸金申込ニ對シテハ其回收確實ナリ

ト認メタルトキハ返済ノ方法ヲ定メタル上名譽會長ノ同意ヲ得テ其貸金ヲ爲ス事ヲ得。

第二十六節 貸金ハ原則トシテ社員積立金又ハ會社ノ認ムル有價

證券ヲ擔保トシテ提供セシムルモノトス。

第二十七節 貸金ハ原則トシテ俸給月額ノ五倍ヲ限度トス。

第二十八節 貸金ノ辨濟期ハ三ケ年以内ニ於テ之ヲ定ム。但シ特別ノ事情アルトキハ理事會ノ決定ニ依ツテ其期間ヲ延長スルコトアルベシ。

第二十九節 理事ハ貸金使用ノ實況ヲ調査シ貸金ノ目的ニ反スル

モノアリト認メタルトキハ期限内ト雖モ辨濟ヲナサシムルコトヲ得。

第三十節 貸金利子ハ年六分以上トス。

購買施設規則

第一節 本購買施設ハ便宜之レヲ會社ニ委託シ其ノ會計ヲ共濟會

ノ一般會計ヨリ分離ス。

第二節 本購買施設ニ依ツテ生ズル損益ハ之レヲ會社ニ歸シ共濟會ノ會計ニ關係ナキモノトス。

第三節 本購買施設ニ付キテハ會社ヨリ會計ノ報告ヲ受ケザルモノトス。

第四節 會長ハ委員若干名ヲ選任シ會務ヲ執ラシム。

第五節 委員ハ會員ノ意向ヲ聽取シ未扱品中適當ト認ムルモノアリタルトキハ會長ノ許可ヲ得テ會社ニ相談シ其取扱ヲ乞フモノトス。

第六節 購買品目ハ差當リ左記ノ通りトシ第五節ノ順序ニ從ヒ漸次其種目ヲ増加スルモノトス。

一、會社販賣品

(イ) 洋書

(ロ) 洋物雜貨化粧品

(ハ) 文具及事務用品

(ニ) 其他適當ノモノ

二、風月堂ニテ販賣スルモノ(菓子類)

三、

四、

五、

六、

七、

八、

九、

十、

(注、ナル可ク會社又ハ社員關係ノ商店ニテ特別大々的ノ割引ヲ契約スルコト)

第七節 右ノ外會社ハ絶ヘズ可及的廣汎ナル品目ニ互リ特價品ヲ蒐集シテ會員ノ爲メニ適當ナル特賣ヲ催スコトアル可シ。

第八節 代金ハ現金拂及ビ掛拂トシ掛拂ハ毎月會員各自ノ會社ヨリ受クル俸給中ヨリ差引クモノトス。

第九節 會員ハ各自ノ俸給ノ二分ノ一以上ノ掛買ヲナスコトヲ得ズ。

第十節 高價品ハ會社及ビ會長ノ承認アリタル場合ニ限り月賦ヲ以テ購買スルコトヲ得。

高價品トハ各自ノ會社ヨリ受クル俸給ノ三分ノ一以上ノモノヲ云フ。月賦拂ニテハ二種以上ヲ一時ニ購買スルコトヲ得ズ。月賦拂ハ一回ノ拂込金ガ五圓ヲ下ルコトヲ得ズ。

第十一節 會員ハ總テ各自ノ購入品ノ運搬ノ任ニ當ルモノトス。

但シ會社ガ特ニ運搬ヲ承諾シタルモノハ此限りニアラズ。

第十二節 會員ハ其購買品ノ種類又ハ購買高ニ對シ會社又ハ理事其他ヨリ善意ノ注意アリタルトキハ之ニ服從スル義務アルモノトス。

第十三節 本會ヨリノ購入品ヲ利潤ヲ得テ他ニ轉賣シ又ハ其他不都合ノ行爲アリタルトキハ本會購買施設ヲ利用スルノ資格ヲ停止スルコトアルベシ。

同好小會通則

第一節 同好小會ハ會員中ノ同好者ガ其好ム處ニ從ツテ文藝、體育、旅行、娛樂、其他主トシテ趣味のニ結合スル各種ノ小會ヲ云フ。

第二節 同好小會ハ大別左ノ四會ニ分チ其各會ヲ更ニ小部分ニ分ツ。必要アル場合ハ分類ヲ増加スルモノトス。

一、文藝會

1、文學部 2、美術部 3、寫眞部 4、音樂部

二、體育會

1、野球部 2、庭球部 3、水泳部 4、陸上競技部

三、旅行會

1、旅行部 2、山岳部

四、娛樂會

1、圍碁俱樂部 2、麻雀部 3、觀劇部

第三節 同好小會ノ各會ニ各一名ノ主事ヲ置ク。主事ハ會長之レヲ指命シ會長ノ指揮ノ下ニ其小會ノ會務ヲ執ルモノトス。

第四節 各部ニ各若干名ノ係員ヲ置ク。係員ハ別ニ定ムル選舉規定ニ依リ選出シ係員ノ互選ニ依リ部長各一名ヲ選定ス。

部長ハ其屬スル小會ノ主事ヲ補佐スルト同時ニ主事ノ指揮ノ下ニ部務ヲ執ルモノトス。

係員ハ部長ヲ補佐スルモノトス

第五節 同好小會ノ主事ハ會長ノ同意ヲ得テ一般會計ヨリ各小會毎ニ一ケ年金參百圓迄ノ給與ヲ受クルコトヲ得。

第六節 前項ノ金額ニテ經費不足ノ場合ニハ適宜會費ヲ徴收スルモノトス。

第七節 各小會及各部ノ細則ハ必要ニ應ジテ其小會又ハ各部ニ於テ定メ理事ヲ經テ會長ノ裁可ヲ得ルコトヲ要ス。

選舉規定

第一節 會員ニシテ入社後滿六ケ月ヲ經タルモノハ選舉權ヲ有ス。但シ滿十八歳以下ノ者ハ選舉權ヲ有セズ。

第二節 勤續滿五ケ年以上ノ成年手代ハ被選舉權ヲ有ス。

第三節 會社ノ定ムル罰則ノ適用ヲ受ケタル時ヨリ滿二ケ年ヲ經過セザルモノハ選舉權及被選舉權ヲ有セズ。

但シ右期間中ト雖モ會長ノ認可ヲ經タルモノハ此限リニ非ズ。
第四節 選舉事務ハ課別支店別又ハ出張所別ニ之ヲ行フトキハ課

長、支店長又ハ出張所長ヲ委員長トシ其他ノ時ニハ選舉者中ノ最古參者ヲ委員長トシテ之ニ當ル。

第五節 投票ハ無記名連記投票トス。

第六節 社用又ハ不止得事情ノ爲メ投票シ得ザルモノハ委任投票ヲナスコトヲ得。但シ右ニ該當スルモノハ會長ノ許可ヲ要ス。

(創立ノ際ニ於ケル會長ハ社長之ヲ代行ス)

第七節 投票同數ノ場合ハ勤續年順ニ依リ當選ヲ定ム。

〔注〕 丸善共濟會々則

社員相互の親睦をはかり購買その他共濟的事業を行ふ機關として昭和四年九月二日設立。昭和十七年丸善報國會、昭和二十四年四月丸善厚生會に改組。

丸善報國會會則 附 丸善銑後援會規約

第一章 總則

第一條 本會ハ丸善報國會ト稱ス

第二條 本會ハ丸善株式會社(以下單ニ會社ト稱ス)ノ役員以下社員ノ全員ヲ以テ組織ス 但シ囑託ハ會長ノ許可ヲ得テ入會シ得ルモノトス

第三條 本會ハ國體ノ本義ニ徹シ上下一體社是ヲ體シ會員ノ福祉増進ヲ計リ和衷戮力社業ノ發展ニ寄與シ以テ職分報國ノ實ヲ舉グルヲ目的トス

第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達成スルタメ左ノ事業ヲ行フ

一、報國精神昂揚ニ關スル事業

二、教養、體育、保健衛生、共濟、慰安等ノ福利厚生ニ必要ナル施設

三、其他本會ノ使命達成ニ必要ナル事業

第五條 本會ハ本部ヲ本店内ニ、支部ヲ大阪、神戸、京都、横濱、福岡、仙臺、名古屋、札幌、京城ノ各支店並ニ新京出張所内ニ置ク 但シ其ノ他ノ支店、出張所及ヒ賣店ノ會員ハ會社ノ業務區劃ニ從ヒ其所屬ヲ決定ス

第六條 本會々員ハ會長ノ承認ナクシテ社外ノ團體若クハ組合ニ加入スルコトヲ得ス

第七條 本會々則ノ變更ハ總會ニ諮リ會長之ヲ行フ 但シ其ノ變更力單ニ辭句又ハ用語ノ訂正ニ留マリ内容ニ變更ナキ場合ハ會長豫メ理事會ノ意見ヲ徵シ之ヲ行フ

第八條 本會々則ニ疑義ヲ生シタルキハ會長ハ理事會ヲシテ審議セシメ之ヲ決定ス

第九條 本會運営上ノ必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 役員

第十條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、名譽會長 一名

一、會長 一名

一、理事 二十一名(內理事長一名)

一、監事 二名

一、評議員 若干名

第十一條 名譽會長ハ社長ヲ推薦スルモノトス

第十二條 會長ハ理事會ノ推薦ニヨリ名譽會長ノ認可ヲ得テ之ヲ

定ム

第十三條 理事ノ内本部理事ハ十一名、支部理事ハ各支部ニ付一名トス

本部理事ノ内五名ハ第十五條第一號所定ノ本部評議員ノ互選ニ依リ六名ハ同條第二號所定ノ本部評議員ノ互選ニ依リ之ヲ定ム 支部理事ハ第十五條第一號所定ノ各支部評議員ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

理事長ハ本部理事ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 監事ハ本部評議員ノ互選ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 左記ノ者ヲ以テ評議員トス

一、部長、次長、支店長、支店次長、課長、支店出張所主任及ヒ副長ノ全員

二、前號以外ノ手代會員中ヨリ各課、課ヲ置カサル各支店及各出張所ヲ一選舉區トシテ會員十五名ニ付一名ノ割合ヲ以テ別ニ定ムル選舉規定ニ依リ選出セラレタル者 但シ十五名以下ノ課、支店又ハ出張所ハ十五名アルモノト見做シ選舉ヲ行フモノトス

第十六條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理シ會議ニ參與ス

理事長ハ會長ノ命ヲ承ケ本會ノ事務ヲ掌理ス

理事ハ理事長ヲ補佐シ本會ノ事務ヲ處理ス

監事ハ本會ノ會計ヲ監査シ總會ニ於テ報告スルモノトス 其ノ他會則ニ違反スル事項アリト認メタル時ハ直ニ名譽會長ニ報告シ必要ニ應ジ總會ニ於テ之ヲ報告スル義務アルモノトス

評議員ハ會長ノ招集ニ應シ諸般ノ協議ニ參與ス

第十七條 名譽會長ヲ除キ役員ノ任期ハ二ケ年トス 但シ重任ヲ

妨ケス

第十八條 役員ニ缺員ヲ生シタルトキハ直チニ補充スルモノト

ス

此ノ場合補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十九條 本會ニ顧問若干名ヲ置クコトヲ得

第二十條 顧問ハ會長之ヲ委囑ス

第二十一條 顧問ハ會長ノ諮問ニ應スルモノトス

第二十二條 本會ニ委員若干名ヲ置キ理事指揮ノ下ニ會務ヲ分掌

セシム

委員ハ會員中ヨリ理事長之ヲ任命ス 但シ支部ニ於テハ當該支

部理事之ヲ任命シ理事長ニ報告スルモノトス

第三章 會議

第二十三條 本會ノ會議ハ左ノ二種トス

一、總會

一、理事會

第二十四條 總會ハ會長、理事、監事及ヒ評議員ヲ以テ組織シ毎

年二月會長之ヲ招集ス 但シ會長必要ト認メタルトキハ臨時ニ

之ヲ招集スルコトヲ得

總會ノ議長ハ會長之ニ當ル

第二十五條 理事會ハ毎月一回理事長之ヲ招集ス 但シ理事長必

要ト認メタルトキ又ハ理事ノ三分ノ一以上ヨリ請求アリタルト

キハ臨時之ヲ招集ス

理事長必要アリト認メタルトキハ理事會ニ事業部會主事ヲ參加

セシムルコトアルヘシ

理事會ノ議長ハ理事長之ニ當ル

第二十六條 會議ハ何レモ構成役員ノ過半数出席スルニ非サレハ

之ヲ開催スルコトヲ得ス

役員ハ他ノ出席役員ニ委任シテ議決權ヲ行フコトヲ得

第二十七條 會議ノ議事ハ出席役員ノ三分ノ二以上ノ數ヲ以テ之

ヲ決ス

第二十八條 理事會ニ於テ審議スル事項ハ左ノ如シ

一、諸規則ノ制定及ヒ改廢

二、總會ニ提出スル諸般ノ報告及ヒ議案

三、資金ノ運用、次年度ノ豫算及ヒ其變更

四、事業部會ヨリ提出ノ議案

五、其ノ他重要ナル事項

第四章 會計

第二十九條 本會ノ會計年度ハ毎月二月一日ヨリ翌年一月末日迄

トス

第三十條 會長ハ毎年一月三十一日ニ於テ本會ノ財産目錄、貸借

對照表、收支決算表並ニ次年度ノ豫算表ヲ作製シ翌月開催ノ總

會ニ報告スルモノトス

第三十一條 本會ノ經費ハ會費、會社補助金、寄附金、基本金、

基金並ニ豫備金ノ利息及ヒ雜收入ヲ以テ之ニ充ツ

第三十二條 本會々員ハ會費トシテ左ノ標準ニ依リ毎月各自ノ俸

給中ヨリ醸金スルモノトス

月給ノ千分ノ五、日給ノ八分ノ一

第三十三條 病氣缺勤、入營其ノ他ニヨリ俸給ヲ受ケサル月或ハ

俸給力其ノ月額ノ二分ノ一ニ滿タサル月ノ會費ハ之ヲ免除ス

第三十四條 會社ノ提供ニ係ル基本金ハ經費ニ充當スルヲ得ス

前項ノ基本金ハ會社ニ於テ之ヲ管理ス

第三十五條 寄附金ニシテ其使途ニ關シ特ニ寄附者ノ意思表示ナ

キモノハ之ヲ篤志基金ニ繰入ル、モノトス

篤志基金ハ總會ノ決議ニ依リ一般經費以外ノ特別ノ支出ニ充當

スルモノトス

第三十六條 毎年度決算ニ於テ剩餘金ヲ生シタルトキハ支出豫備

金ニ繰入ル、モノトス

第三十七條 本會ノ經費ハ第二十八條所定ノ收入ヲ以テ支辨スル

能ハサルトキハ理事會ノ決議ニ依リ支出豫備金中ヨリ補充スル

モノトス 但シ支出豫備金ナキニ至リタルトキハ支出ヲ中止ス

前項ノ支出超過ガ連續スヘキ處アルトキハ總會ノ決議ニ依リ收

入ノ増加又ハ支出ノ制限ニ關スル方途ヲ講スルモノトス

第三十八條 本會ノ基本金、豫備金其他金錢ハ會社ヘ預金ヲナス

ヘキモノトス

基本金及豫備金ヲ會社ノ預金以外ニ運用セントスル場合ニハ名

譽會長ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

但シ其運用ノ方法ハ株券其他ノ有價證券ニ投資スルコトヲ原則

トス

株券又ハ有價證券ハ會社ニ其保管ヲ委託スルモノトス

第三十九條 本會ハ會社ノ解散ニヨリ又ハ名譽會長ノ同意ヲ得テ

會員五分ノ四以上ノ決議ニヨリ解散ス

此ノ場合ニ於テ本會ノ財産ハ各會員ノ入會後會社ヨリ支給セラ

レタル俸給ノ全額ヲ基本トシテ其割合ニ應シテ分配ヲナス

第四十條 會員ハ脫會ノ際規定ニヨル支給ノ外金錢其ノ他ノ分配

ヲ要求スルコトヲ得ス

第五章 雜則

第四十一條 本會ハ左記ノ機關ト常ニ緊密ナル聯絡ヲ保チ本會ノ

目的達成ヲ期スルモノトス

一、職員健康保險

一、丸善統後援會

一、丸善國民貯蓄組合

第四十二條 會員ニ對スル通告又ハ報告ハ會誌、文書或ハ揭示ヲ

以テス

第四十三條 本會ニ左ノ帳簿ヲ備フ但シ必要ニ應シ増備スルモノ

トス

一、會員名簿

一、會務錄

一、日記帳

一、總勘定元帳

第四十四條 會員ハ退社ト同時ニ會員ノ資格ヲ喪失ス

附 則

本會則ハ昭和十七年六月一日（同日丸善共濟會ノ名稱ヲ丸善報國會ト改ム）ヨリ之ヲ實施ス

役員選任規定

第一節 本會役員ノ選任ハ會則第十二條、第十三條、第十四條及

ビ第十五條ノ本規定ニ據ル

第二節 役員ノ選舉資格ハ入社後一ケ年ヲ經テ取得ス

第三節 役員ノ被選舉資格ハ手代以上ノ會員ニシテ入社後滿五ケ

年以上ノ者タルヲ要ス

第四節 選舉ハ課別毎、支店別、又ハ出張所別ニ之ヲ行ヒ上席者

ヲ以テ選舉委員長トス

第五節 社用又ハ止ムヲ得サル事情ノ爲メ投票シ得サルモノハ委

任投票ヲナスコトヲ得

第六節 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一、正規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ

二、被選舉人ノ何人タルカラ確認シ難キモノ

三、被選舉權ナキモノノ氏名ヲ記載シタルモノ

第七節 投票同數ノ場合ハ會社ノ勤續年順ニ依リ當選ヲ定ム

第八節 選舉委員長ハ當選者決定シタルトキハ直チニ當選者ニ告

知スルトトモニ名譽會長ニ報告スヘシ

事業部會細則

第一章 通 則

第一條 事業部會ヲ左ノ四種トシ理事會之ヲ統轄ス

一、修養會

一、福利共濟會

一、體育會

一、同好會

第二條 各會ニ主事ヲ置キ會長之ヲ任命ス

主事ハ理事長ノ命ヲ受ケ會務ヲ處理ス

主事ノ任期ハ二ケ年トス 但シ重任ヲ妨ケス

第二章 修養會

第三條 修養會ハ會員ノ教化、修養、人格ノ陶冶、情操ノ涵養ヲ

圖ルヲ以テ目的トス

第四條 前條ノ目的達成ノ爲左ノ事業ヲ行フ

一、講演會

二、講習會

三、其ノ他教養上必要ナル事業

第三章 福利共濟會

第五條 福利共濟會ニ左ノ部ヲ置ク

一、共濟部

二、金融部

三、保險代理部

四、購買部

第六條 各部ニ部長ヲ置キ主事ノ推薦ニヨリ會長之ヲ任命ス

部長ノ任期ハ二ケ年トス 但シ重任ヲ妨ケス

第一節 共濟部

第七條 本部ハ左ノ給與ヲ行フ

一、療養扶助金

二、災害見舞金

三、弔慰金

四、脫會餞別金

五、入營慶賀金

六、結婚慶賀金

七、出生慶賀金

八、特別給與金

第八條 給與ハ總テ届出ニ依リ之ヲ行フモノトス

第九條 給與ハ左ノ一ニ該當スル場合ハ之ヲ行ハス

一、届出カ眞實ナラサリシトキ

二、給與ノ原因カ生シタルトキヨリ三ヶ月以内ニ届出ナカリシ

トキ

三、會社ノ處罰ヲ受ケ退社ヲ命セラレタルトキ

四、其ノ他理事會ニ於テ不適當ト認メタルトキ

第十條 給與金ハ本人ノ月給又ハ日給ヲ基準トシテ之ヲ定ム但シ

日給ハ其ノ三十日分ヲ以テ月額トス

第十一條 給與金ハ十錢ヲ單位トシ端數ヲ生シタルトキハ四捨五

入トス

療養扶助金

第十二條 入社後一ケ年以上ヲ經タル者病氣又ハ負傷ノ爲休養ヲ

要スルトキハ左ノ場合療養扶助金ヲ支給ス

一、月給會員中手代以上ハ月給力半額トナリタル場合 其ノ他

ハ無給トナリタル場合

二、日給會員ハ引續キ七日以上休養ヲ要スル場合 但シ最初ノ

缺勤ノ日ヨリ七日間ハ支給ヲ行ハス

第十三條 前條ノ支給ハ左ノ規定ニ依リ一日ニ付俸給月額ノ六十

分ノ一トス

一、入社後二ケ年未滿ノ場合ニハ一休養期間ヲ通シテ三十日以

内

二、入社後二ケ年以上ノ場合ニハ一休養期間ヲ通シテ九十日以

内

休養引續キ一ケ年以上ニ涉ルトキハ事情ニ依リ更ニ左ノ見舞金

ヲ支給スルコトアルヘシ

前項第一號ノ場合 二十日以内

同 第二號ノ場合 六十日以内

災害見舞金

第十四條 入社後六ヶ月以上ヲ經タル者不慮ノ災害ニ罹リタルト

キハ其ノ被害ノ程度ニ依リ左ノ範圍内ニ於テ理事會ノ決議ニヨ
リ災害見舞金ヲ支給ス

俸給月額ノ三十分ノ十五以内

弔慰金(家族ノ場合)

第十五條 入社後一ケ年以上ヲ經タル會員ニシテ其ノ親族ニ死亡

者アリタルトキハ左ノ規定ニ依リ弔慰金ヲ贈與ス

一、配偶者 俸給月額ノ三十分ノ十五

二、父母及ヒ子女 三十分ノ十

但シ出生後一ケ年未滿ノ子女ハ半額トス

三、祖父母、孫及ヒ兄弟姉妹 俸給月額ノ三十分ノ五

四、戸籍ヲ異ニスル實父母 三十分ノ八

但シ右ノ贈與ハ百圓以上ノ場合ハ拾圓單位、百圓未滿ノ場合

ハ五圓單位トシ(六捨七入)最低ヲ五圓トス

弔慰金(會員ノ場合)

第十六條 入社後一ケ年以上ヲ經タル會員死亡シタルトキハ左表

ニヨル弔慰金ヲ遺族ニ贈與ス

在勤年數	俸給月額					
	以上一ケ年	以上三ケ年	以上五ケ年	以上十ケ年	年十五以上	年廿五以上
四拾圓未滿	一〇圓	二五圓	三五圓	四〇圓	六五	一〇圓
四拾圓以上	一五	三五	五五	六〇	六五	一〇圓

參 圓	貳 拾圓	貳 百圓	百 拾圓	百 五圓	百 貳拾圓	八 拾圓	六 拾圓
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
一 〇	八 五	七 〇	五 〇	四 〇	三 〇	二 五	二 〇
二 三	二 〇	一 六	一 二	九 〇	七 五	五 五	四 五
三 〇〇	二 六〇	二 一〇	一 六〇	一 三〇	一 〇〇	八 〇	〇
三 〇〇	二 九〇	二 三〇	一 八〇	一 五〇	一 一〇	九 〇	〇
三 〇〇	三 〇〇	三 〇〇	二 五〇	一 九〇	一 六〇	一 二〇	九 五
三 〇〇	三 〇〇	三 〇〇	二 六〇	二 〇〇	一 七〇	一 三〇	一 〇〇
三 〇〇	三 〇〇	三 〇〇	二 八〇	二 二〇	一 八〇	一 五〇	〇

第十七條 前條ノ弔慰金ハ左ノ順位ニ依リ贈與スルモノトス

一、配偶者

二子

三、孫

四、父母

五、祖父母

但シ本人カ死亡前別段ノ意志ヲ表示シタルトキハ之ニ依ルコトヲ得

脫會餞別金

第十八條 入社後三ヶ年以上ヲ經タルモノ脫會シタルトキハ左表

ニヨル脱會餞別金ヲ贈與ス

四拾圓未満	俸給月額	在勸年數
	三圓	以上三ヶ年
	五圓	以上五ヶ年
	一〇圓	以上十ヶ年
	一圓	年十以上五ヶ
一圓以上	一圓	年二十以上
	一圓	年廿以上五ヶ
	一圓	年廿以上五ヶ

參百圓	貳百五十圓	貳百圓	百五十圓	百貳拾五圓	百圓	八拾圓	六拾圓	四拾圓以上
三〇	二五	二〇	一五	一〇	一〇	五	五	五
四〇	三五	三〇	二五	二〇	一五	一〇	一〇	五
八〇	七〇	六〇	四五	三五	三〇	二〇	二〇	一〇
一〇〇	九〇	七五	六〇	四五	三五	三〇	二五	一五
一〇〇	〇〇	一〇	八〇	六〇	五〇	四〇	三〇	一〇
一〇〇	〇〇	一〇	一〇	八〇	六五	五五	一〇	一〇

入營慶賀金

第十九條 入社後一ケ年以上ヲ經タル者現役トシテ軍隊ニ入營シ

タルトキハ左ノ入營慶賀金ヲ贈與ス

三ヶ月未滿入營 五圓

一ヶ年 //

拾圓

二ヶ年
拾五圓

三ヶ年未滿入營 貳拾圓

結婚慶賀金

第二十條 入社後一ヶ年以上ヲ經タル者結婚シタルトキハ初婚ノ

場合ニ限り左ノ結婚慶賀金ヲ贈與ス

俸給月額ノ三十分ノ十五

出生慶賀金

第二十一條 入社後一ヶ年以上ヲ經タル者子女出生シタルトキハ

左ノ出生慶賀金ヲ贈與ス

初生兒ノ場合

俸給月額ノ三十分ノ十五

其ノ他ノ場合

〃 三十分ノ十

特別給與金

第二十二條 本會ハ規定ニヨル給與金ノ外理事會ノ決議ニヨリ贈

與又ハ支給ヲ行フコトアルヘシ

第二節 金融部

第二十三條 本部ハ普通金融、小口金融及ヒ月賦立替ヲ行フモノ

トス

普通金融

第二十四條 入社後五ヶ年以上ヲ經タル會員ハ止ムヲ得サル事由

アル場合金融ノ申込ヲナスコトヲ得

但シ其他ノ會員ト雖モ事情ニ依リ申込ヲナスコトヲ得

第二十五條 前條ノ申込ニ對シテハ理事會ノ審議ヲ經テ左記ニ依

リ貸付ヲナスモノトス

一、金額

俸給月額ノ五倍以内

二、期限

三ヶ年以内

三、利子

百圓ニ付日歩一錢

但シ時ノ事情ニヨリ變更スルコトアルヘシ

第二十六條 貸金ニシテ其ノ使途カ申込ノ理由ニ反スルモノアリ

ト認メタルトキ又ハ脱會ノ場合ハ期限内ト雖モ直チニ殘額ヲ返
濟セシムルモノトス

小口金融

第二十七條 入社後五ヶ年以上ヲ經タル會員ハ止ムヲ得サル事由

アル場合小口金融ノ申込ヲナスコトヲ得

但シ其ノ他ノ會員ト雖モ事情ニ依リ申込ヲナスコトヲ得

第二十八條 前條ノ申込ニ對シテハ其ノ事情ヲ調査シ左ノ方法ニ

依リ貸付ヲナスモノトス

金額

拾圓、貳拾圓、參拾圓

期限

三ヶ月以内

回收方法

貸付ケタル月ノ俸給ヨリ差引徴收ス 但シ貸付

カ二十日以後ノ場合ハ其ノ翌月ヨリ徴收ス

申込手續

本會特定傳票ニヨリ所屬課長ノ承認ヲ得テ金融

部長ニ申込ムコト

但シ一人ニ付一口限リトス

利息

左ノ割合ニ依リ第一回分返済ノ時其ノ全額ヲ徴

收ス

但シ返済期日前完済ノ場合ト雖モ既收ノ

利息ハ返戻セス

一ヶ月以内ニ返済ノ場合 元金ニ對シ一分

二ヶ月月賦ニテ返済ノ場合 "

三ヶ月月賦ニテ返済ノ場合 "

第二十九條 第二十六條ノ規定ハ小口金融ニ之ヲ準用ス

月賦立替

第三十條 月賦取扱ヒヲナスモノ左ノ如シ

一、生命保険料

二、定期乗車券購入代金

三、其ノ他理事會ニ於テ適當ト認メタルモノ

第三十一條 生命保険料ハ十二ヶ月以内其他ハ六ヶ月以内ノ月賦

トシ立替ノ翌月ヨリ返済スルモノトス

第三十二條 月賦立替金ニ對シ左ノ手数料ヲ徴收ス

十二ヶ月以内 立替高ニ對シ 三分

六ヶ月以内 " 二分

三ヶ月以内 " 一分

但シ右ノ割合ハ狀況ニ依リ適宜變更スルコトアルヘシ

第三十三條 月賦立替ノ申込ハ本會特定ノ申込書ニ依リ所屬課長

ノ承認ヲ得テ金融部々長ニ提出スヘシ

第三十四條 月賦立替ノ限度ハ毎月ノ拂込總額ニ於テ各自俸給月

額ノ四分ノ一相當額以内トス

第三十五條 脱會ノ場合ハ即時殘額ヲ返済スルモノトス

第三節 保險代理部

第三十六條 本部ハ會員カ本人若クハ其ノ家族ヲ被保險者トシ本

會特約ノ會社ト契約ヲナス生命保險ニ限り其ノ代理事務ヲ取扱

フ

第三十七條 保險料ハ每期必ス期日迄ニ本部ヘ拂込ムモノトス

但シ第二節第三十一條ニヨリ其ノ料金ノ立替ヲ受ケ拂込ムコト

ヲ得

第四節 購買部

第三十八條 本部ハ會員ニ對シ主トシテ日常必需品ノ配給 其ノ

他生活上ノ便宜ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三十九條 本部取扱種目並ニ取扱方法ハ會長ノ承認ヲ經テ理事

會之ヲ決定ス

第四十條 購買ハ本部特定ノ傳票ニ依リ之ヲ行ヒ代金ハ會社ヨリ

受クル各自ノ俸給ヨリ差引クモノトス

第四十一條 會員ハ購買品ノ種類又ハ購買高ニ對シ部長又ハ課長

ヨリ注意アリタルトキハ之ニ服スルモノトス

第四章 體育會

第四十二條 體育會ニ左ノ部ヲ置ク 但シ必要ニ應シ會長ノ承認

ヲ得テ之ヲ増減スルコトヲ得

(1) 野球部

(2) 庭球部

(3) 水泳部

(4) 陸上競技部

(5) 武道部

(6) 旅行部

第四十三條 各部ニ部長ヲ置ク 部長ハ各部員中ヨリ之ヲ互選シ
主事ヲ經テ理事長ノ承認ヲ得テ就任スルモノトス 其ノ任期ヲ
二ケ年トス 但シ重任ヲ妨ケス

第四十四條 各部ノ細則ハ必要ニ應シテ其ノ部ニ於テ之ヲ定メ主
事ヲ經テ理事長ノ許可ヲ受クルモノトス

第四十五條 各部ニ於テ發行スル印刷物ハ配布前若干部ヲ理事長
ニ提出スルコトヲ要ス

第五章 同好會

第四十六條 同好會ニ左ノ部ヲ置ク 但シ必要ニ應シ會長ノ承認
ヲ得テ之ヲ増減スルコトヲ得

(1) 文學部

(2) 美術部

(3) 寫眞部

(4) 音樂部

(5) 書道部

(6) 圍碁將棋部

(7) 釣魚部

(8) 謠曲部

第四十七條 各部ニ部長ヲ置ク 部長ハ各部員中ヨリ之ヲ互選シ
主事ヲ經テ理事長ノ承認ヲ得テ就任スルモノトス 其ノ任期ヲ
二ケ年トス 但シ重任ヲ妨ケス

第四十八條 各部ノ細則ハ必要ニ應シテ其ノ部ニ於テ之ヲ定メ主
事ヲ經テ理事長ノ許可ヲ受クルモノトス

第四十九條 各部ニ於テ發行スル印刷物ハ配布前若干部ヲ理事長
ニ提出スルコトヲ要ス

第六章 雜則

第五十條 左記事業ハ之ヲ年次計畫トシ毎年度ニ於テ適當額ヲ積

立ツルモノトス

一、圖書ノ設備

一、體育ノ施設

一、保健衛生施設